

S I P 第 3 期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 7 年 6 月 5 日

ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築
プログラムディレクター 西村 訓弘

今般、ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築においては、各研究開発テーマの状況を踏まえた方針の見直しや、前回変更時点（令和 6 年 5 月 23 日）以降の研究計画の進捗、中間評価実施に伴う対応等を反映するため、社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更を行いたい。主な変更点は以下のとおり。

1. 各研究開発テーマの状況を踏まえた方針の見直し

本課題では、北海道に理想的な未来社会のショーケースを構築することを目指し、まずは北海道伊達市に集中的に研究開発成果を結集することとしていた。各研究開発テーマの状況を踏まえ、伊達市を中心としたショーケースの構築を目指しつつ、北海道を全国展開のためのテストフィールドとして整理し、文言の更新を行った。

また、「Ⅱ.社会実装に向けた戦略」における「5.5つの視点でのロードマップと成熟度レベル」について、本課題の研究開発に馴染むよう、本課題の成熟度レベルの定義についての表現等をより具体化した。

2. 研究開発計画の進捗を反映

「Ⅲ 研究開発計画」における「3 個別の研究開発テーマ」等について、過年度までの進捗状況や令和 7 年度の予算額等を追記した。

3. 中間評価実施に伴う追記

中間評価実施に伴う「戦略的イノベーション創造プログラム（S I P） 評価に関する運用指針」の改正を受けて、「Ⅴ.評価に係る事項」にユーザーレビューやステージゲートに関する記載を反映するとともに、ユーザーレビュー委員、ユーザーレビュー、ステージゲート委員の選定に伴い、実施体制について更新した。

以上